

# 平成24年度 校内研究全体計画

## 1 研究主題

「考える力を育て、伝え合う力を高めるための指導の工夫」  
－ 国語科「話すこと・聞くこと」の充実を通して －

## 2 主題設定の理由

### (1)今日の課題から

21世紀は新しい知識・情報・技術が社会のあらゆる領域で活動の基盤として重要性を増している。現在の「知識基盤社会」では、単なる知識や技能ではなく、それらを活用し、複雑な課題に対応する能力の育成が求められている。複雑化し激しく変化する社会の中で、適切な判断をし、生き抜く上で、OECDでは3つの「キーコンピテンシー」を掲げ、その一つに「人間関係形成能力」の育成を挙げた。

他方、PISA調査など各種の調査から我が国の児童生徒は、思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式問題、知識・技能を活用する問題に課題があることを指摘している。それらの課題解決のために、基盤となる言語に関する能力の育成が求められている。その中核をなすのが国語科における「言語活動の充実」であると捉えた。

国語科の目標は「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。」である。この「伝え合う力を高める」ことを言語を手がかりとしながら、的確に理解し、論理的に思考する力や豊かに想像する力が求められている。

中でも「話すこと・聞くこと」の領域は、相手の立場や気持ちを考えて共感的に話したり、聞いたりできるよう、よりよい「伝え合い」のために、充実させる必要がある。

### (2)本校の教育目標から

本校の教育目標は「未来を切り拓くたくましい力をもった子どもの育成」である。それを受けて、めざす児童像として「自ら学び、よく考える子ども」「心豊かで、思いやりのある子ども」「健康で、たくましい子ども」の3つを掲げ、その具現化を図るべく日々教育活動に取り組んでいる。

平成22、23年度の校内研究は地域に根ざし、たくましく生きる児童の育成を目的に、「自分づくり教育」の年間指導計画の作成と、生活科・総合的な学習の時間における「坪沼野菜村」の実践を通じた横断的な研究を行ってきた。しかし、全校に共通する課題として、児童同士の話し合い活動や地域の方との交流の際、自分の考えをもち、それを相手に伝えることが不十分であるという実態が浮かび上がってきた。

また、本校は全校児童16名、複式の3学級であり、学年の児童数も2～5名の小規模校である。家庭的な雰囲気の中で学校生活を送れる反面、児童同士で意見を交わし、高め合う活動や、多くの児童の前で発表や発言等の表現活動に幅を持たせることが難しい状況にある。児童数も昨年度より5名少なくなるなど、減少していく傾向にある中で、意見の表明や伝え合う活動の必要性がますます増加してきた。

そこで、言語活動の土台であり、全教科における教育活動の基礎となる国語科における「話すこと・聞くこと」を重点化することとした。

### (3)児童の実態から

子どもたちは、元気で明るく伸び伸びと生活しており、外遊びも進んで参加している。また、小規模校の利点を生かし、全校での活動やたてわり活動など、他学年とかかわる場面や協力する場面

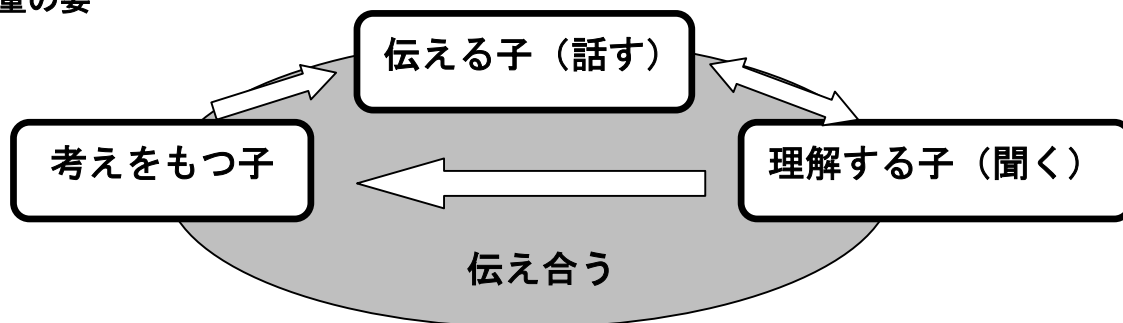
を積極的に設定している。しかし、全体的に指示を待つ傾向が見られ、受動的な面がある。

授業中は、自分の考えを発表したり、表現したりすることが苦手で、自分の思いを伝えることが不十分であるのが現状である。発表の際も、声が小さく、語尾がはっきりしないなど、相手を意識した「話すこと・聞くこと」が十分とは言えないのが現状である。

平成24年度の「仙台市標準学力検査」国語科の結果では、全学年とも、文章の「読み取り」に課題があった。また、「応用」「活用」に関する問題の正答率は低く、思考力・判断力・表現力等にも課題がみられた。特に、記述式の回答において無答が多かった。国語科は、日常生活経験や言語環境による影響からか、算数科に比べて個人差が大きいことも明らかとなった。

児童がたくましく未来を切り拓いていくためには、小規模校における条件下であっても、社会性を高めていくことが重要である。そのためには、自らの考えや思いをしっかり表現し、また、聞く側もその思いを理解し、共感しながら聞く態度を身に付けさせ、互いに伝え合う力を高めさせたいと考え、本主題を設定した。

### 3 めざす児童の姿



	考えをもつ子	伝える子 (話す)	理解する子 (聞く)
低学年	課題に対応した考えをもつ。	話すことがらを順序立てて話す。	大事なことを落とさないように聞く。
中学年	理由を明確にして考えをもつ。	理由や事例などを挙げながら筋道立てて話す。	話の中心に気をつけて聞く。
高学年	理由や根拠を挙げながら考えをもつ。	事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら話す。	話し手の意図をとらえながら聞く。

### 4 研究目標

国語科の「話すこと・聞くこと」の領域において、考える力を育て、伝え合う力を高めるための指導の在り方について授業実践を通して探る。

## 5 研究の視点

### 〈視点1 発達段階に応じた明確なめあての設定〉

#### 手だて1 年間を見通した指導と評価の一体化

〔話すこと・聞くこと〕領域の単元のみでの年間指導計画を作成し、それぞれの学習内容・ねらい・本年度の具体的な手立て等についてまとめる。単元ごとに評価をし、成果・課題を付け加え指導と評価の一体化を図る。

#### 手だて2 6年間を見通した年間指導計画の活用

各学年ごとに作成した〔話すこと・聞くこと〕領域の年間指導計画を全校で共有し、担任が系統立てながら児童の実態に合っためあてを設定する。また、「話す」「聞く」「スピーチをする」「話し合いをする」「説明・報告する」という領域ごとに前後の学年の学習内容やねらいを把握して指導する。

#### 手だて3 個別の観点別評価表・支援計画の活用

〔話すこと・聞くこと〕領域に関して調査項目を設定し、年に数回個別の実態調査を行う。児童個々の得意なところ・苦手なところを把握し、個に応じた指導の工夫改善を図る。

### 〈視点2 学校生活全体を通しての継続した指導と支援〉

#### 手だて4 他教科との関連

他教科との関連を図りながら、児童が〔話すこと・聞くこと〕の学習に必要性や魅力を感じる「話題」を提示できるよう授業研究を行う。

#### 手だて5 日常活動における継続した指導

朝の会のスピーチ、話し方・聞き方の指導については系統的に学校全体で取り組む。その他、学年部ごとに工夫して取り組む。

#### 手だて6 読書・音読活動の推進

朝の読書タイム（火曜・金曜）、音読タイム（木曜）、毎日の音読カード、委員会活動等を活用して、読書・音読活動の推進を図る。

## 6 研究の方法

### (1) 理論研究

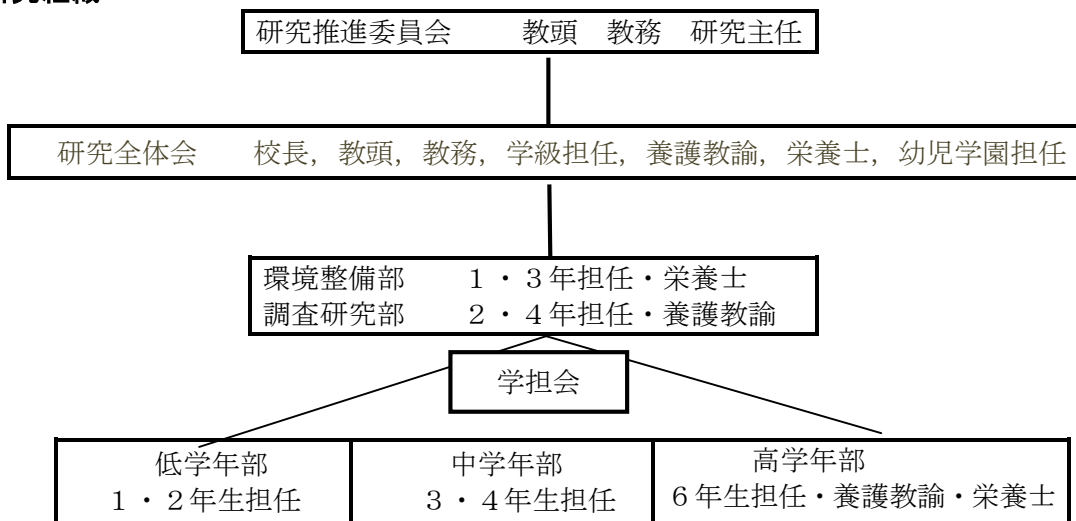
- 児童の実態（思い、願い、レディネス、発達段階、つまづき等）の分析
- 国語科研修会の実施（教育センター 授業力向上サポート）
- 6年間で身に付けさせていくべき国語の力の系統についての研究
- 学年研究構想の策定（目指す児童像の設定や具体的な指導の手立て等）

### (2) 実践研究

- 児童の実態の分析を生かした授業の創造
- 研究主題・副主題に基づいた授業の実践（年5回の授業研究会）  
（事前・事後の検討会の実施、意見の交換）
- 全国及び市学力検査の分析と指導改善の検討
- 〔話すこと・聞くこと〕領域の個別の指導計画の作成と活用
- 家庭との連携（家庭への啓発、家庭学習の実態調査）

## 7 研究組織

### (1) 研究組織



※ 月1回程度の研究部会を行い、「話すこと・聞くこと」の領域を中心に授業や日常の児童の様子についての意見交換や、研究の方法について検討する。

※ 全員が実践授業を行う。

※ 全校研究授業は全員が参加する。

※ 参観者は事後検討会に参加する。参加できない場合は、考えたことや気づいたこと等をメモして授業者に渡す。

### (2) 主な活動内容

組 織		主 な 活 動 内 容
研究全体会		○共同研究に関わる共通理解
研究推進委員会		○研究全体会に向けた内容検討 ○各専門部・各学年部の取り組み内容の検討と連絡調整
専 門 部	環境整備部	○補充的時間の計画・提案 ○「学習の約束」の検討・指導 ○家庭への啓発活動 等
	調査研究部	○意識調査の実施と結果考察 ○全国及び市学力検査の分析と指導改善の検討 ○家庭生活に関する実態調査の実施と結果考察 等
学 年 部		○授業研究に関する指導案の検討 ○研究教科の指導等に関する情報交換 ○事前・事後検討会の役割分担と研究授業時の記録 ○各専門部からの要請に対する対応 等

## 8 研究計画

年	月	校内研究	授業公開
23年度		≪生活科・総合的な学習の時間≫ <b>「挑む」「表現する」「実感する」子どもをはぐくむ指導法の工夫            ～自分づくり教育「坪沼野菜村」の実践をとおして～</b> ・「自分づくり教育」, 「坪沼野菜村」の年間指導計画の作成	
平成 24 年度	4	○第1回研究全体会 (4/5) ・研究基本計画の検討・確認 ・研究テーマ・研究方法・研究内容の共通理解	
	5	○第2回研究全体会 (5/7) ・授業実践・指導計画修正 ・視点・手立てについての検討	
	6	○第3回研究全体会 (6/17) ・「話すこと・聞くこと」領域の単元のめあて, 評価規準の確認 ・4学年指導案検討会	
	7	◎4学年研究授業 (7/23) ○第4回研究全体会 (7/23) ・授業検討 ・個別の実態調査の検討 ・視点と手立てについての検討	
	8	○全国, 仙台市学力調査の分析 ○第5回研究全体会 (8/23) ・校内研究の概要・指導案検討	
	9	○家庭学習実態調査と分析 ◎サポート訪問 (9/10) 1, 2学年研究授業 (複式) ・授業検討会	
	10	○第6回研究全体会 (10/23)	
	11	◎2学年研究授業・検討会 (11/6) ◎3学年研究授業・検討会 (11/27)	
	12	◎6学年研究授業・検討会 (12/11) ○第7回研究全体会 (12/18)	
	1	○研究全体会 (1/28) 研究のまとめと反省・指導計画の修正	
	2	○研究全体会 (2/5) 次年度研究計画立案	
	3	○次年度研究計画の完成	